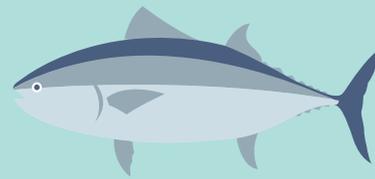
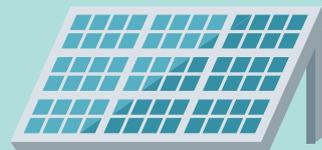


CO・OP



Sustainability Hand book



このハンドブックは、日本生活協同組合連合会が、全国の生協（コープ）の環境・サステナビリティの取り組みを紹介するものです。

日本生活協同組合連合会は各地の生協や都道府県別・事業種別の生協連合会が加入する全国連合会です。生協には地域購買生協、大学生協、学校生協、職域生協、医療福祉生協など様々な生協がありますが、ここではおもに店舗や宅配事業を展開している地域購買生協を取り上げています。



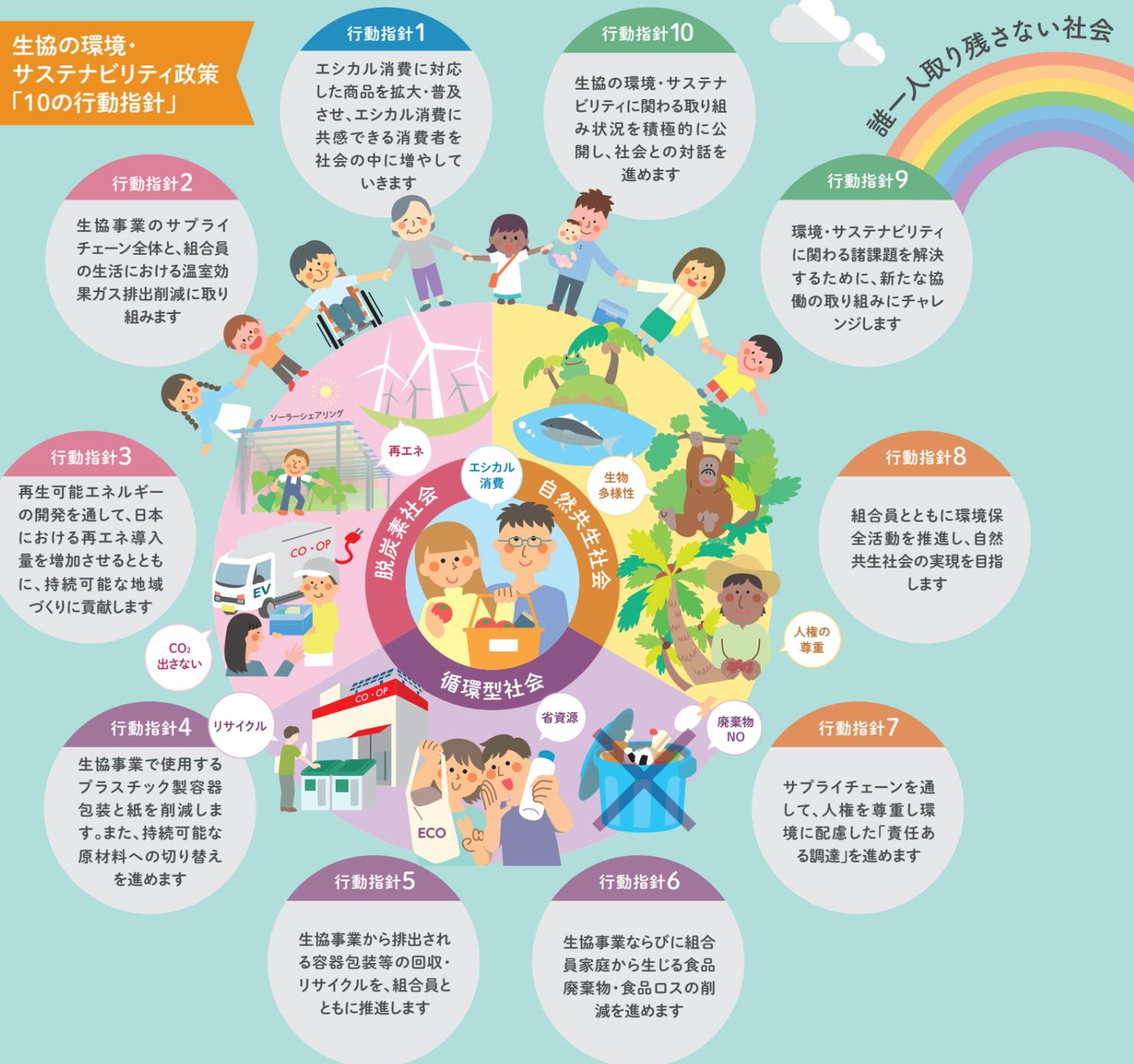
日本生活協同組合連合会

2022年4月発行

「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ」

生協は2021年に「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を策定しました。この政策は、持続可能な社会を実現するために、全国の生協の事業と活動で推進する2030年までの政策です。上記のスローガンのもと、10の行動指針と5つの目標の実現を社会に約束しています。

生協の環境・サステナビリティ政策「10の行動指針」



数字で見る生協(コープ)



※上記の数値は協定締結数を除き2020年度実績です

エシカル消費を広めています



画像提供:おかやまコープ(キャラクター名:エシカルまさおと未来(みく)ちゃん)

エシカル消費に関する学習会や広報活動、店舗や宅配チラシの中からサステナブルな商品を探す「エシカルキャンペーン」などを実施しています。

フードドライブ(*)を行っています



画像提供:ユーコープ

店舗や宅配センターでフードドライブを行っています。組合員から寄贈された商品は、フードバンクを通じて子ども食堂等へ寄贈しています。

(*)フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらを取りまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。

持続可能な地球と社会をつくるために 組合員と一緒に取り組んでいます

回収・リサイクルで 限りある資源を大事にしています



画像提供:コープみらい

店頭のボックスや宅配での商品お届けの際にペットボトルや紙パック、食品トレイ、商品カタログなどを回収し、リサイクルしています。

環境保全活動に取り組んでいます



画像提供:みやぎ生協

組合員や地域の環境団体等とともに、植樹や森づくり、藻場の再生事業、海浜や湖の清掃、水質改善活動、里山の休耕地解消などの環境保全活動を行っています。

コープ商品

「コープサステナブル」の展開を開始!

日本生協連が開発しているコープ商品では、環境や社会に配慮した主原料を使った商品を共通のロゴマークを付けてシリーズ化し、「コープサステナブル」として展開しています。さまざまな認証ラベルが登場する中、共通のロゴをパッケージに表示して視認性を高め、売場でより多くの組合員が「見つけて、選べる」ようにすることで、「エシカル消費」に参加しやすくしています。



海の資源を守る



魚食の未来のために
msc.org/jp



森の資源を守る



ra.org/ja



リサイクル材使用



5つの数値目標と生協の環境・サステナビリティの取り組み

CO₂排出量を2030年に40%削減(2013年度比)します

目標1

省エネ設備やノンフロン^{※1}の冷蔵冷凍ショーケースを導入したエコストアを出店しています

再生可能エネルギーの利用を積極的に進めています(再生可能エネルギー導入率47.4%^{※2})

配送トラックのEV化について調査や実証実験を進めています



画像提供: コープさっぽろ

※1 オゾン破壊係数がゼロであり、代替フロンと違って地球温暖化係数が低い冷媒のこと

※2 全国の生協が調達している電気の、電源構成における再生可能エネルギーの割合

2030年までに年間発電量4億kWhの再生可能エネルギーを開発します

目標2

42生協が551か所で、約2億kWhの再生可能エネルギーを創出しています

店舗や宅配センター等へ太陽光発電設備の設置を進めています(全国で約500か所)

風力発電やバイオマス発電、小水力発電、ソーラーシェアリングに関わっています



画像提供: コープ東北事業連合

使い捨てプラスチック容器包装の使用量を2030年に25%削減(2018年度比)します

目標3

コープ商品ではパッケージのプラスチック使用量の削減を進めています^{※3}

マイバッグ持参運動を40年間展開しています(持参率90%を超える生協も)

店頭や宅配のお届け時に容器包装等を回収しています^{※4}



画像提供: 日本生活協同組合連合会

※3 サイズ・厚さ縮小、紙化、トレイ取りやめなどを進めています。再生・植物由来プラ包材使用製品も500品以上となっています

※4 飲料紙パック約4,200トン、ペットボトル約3,000トン、食品トレイ約2,200トン、卵パック約1,700トン

商品カタログに使用する紙使用量を2030年に25%削減(2021年度比)します

目標4

アプリなど、紙の商品カタログを使用しないで注文できる仕組みを構築しています^{※5}

AIを使った「宅配カタログ配布効率化」の仕組みを実験導入しています^{※6}

36生協が商品カタログに再生紙や認証紙等を使用しています



画像提供: パルシステム連合会

※5 ※6 すべての生協の事例ではありません

食品廃棄物を2030年に50%削減(2018年度比)します

目標5

キズやサイズ違いで規格外になる農産物や天候被害果実などを取り扱っています

店舗では期限が近い商品の購入を促す「てまえどり」運動を展開しています

食品リサイクルを積極的に進めています(食品リサイクル率は全国生協の平均で78%^{※7})

※7 食品廃棄物の発生量のうち、飼料や肥料等に再生利用した量の割合



画像提供: コープこうべ

※数値は日本生協連が52生協を対象に実施した調査実績(2020年度)です。上記の事例はすべての生協が実施している内容ではなく、特定の生協で実施されている事例も含まれています。